

杉谷眞佐子教授 略歴及び主要研究業績



略 歴

- 1966年4月 九州大学 文学部 入学
1971年3月 九州大学 文学部 独語・独文学科 卒業
1971年4月 九州大学 大学院文学研究科 独語・独文学専攻修士課程 入学
(在籍中2年間旧西ドイツ・オルデンブルク教育大学、ボン大学へ留学)
1974年3月 九州大学 大学院 文学研究科独語・独文学専攻修士課程 修了
1974年4月 広島大学文学部 助手
1978年4月 関西大学 文学部 専任講師
1982年4月 関西大学 文学部 助教授
1989年4月 関西大学 文学部 教授
2000年4月 関西大学 外国語教育研究機構 教授
 関西大学 文学研究科 外国語教育専攻 教授
2002年4月 関西大学 外国語教育学研究科 教授
2009年4月 関西大学 外国語学部 教授

以上の期間、関西大学・大学協議会協議員、自己点検・評価委員、年史編纂委員会委員、国際交流主事、経済・政治研究所研究委員、人権問題研究室研究委員、同幹事等を、学会関係では「日本独文学会」理事、同「ドイツ語教授法ゼミナール」担当理事、「ドイツ語教授法ゼミナール」実行委員長、「ドイツ語教育部会」幹事、「日本言語政策学会」副会長、同理事等を、他に、国立教育政策研究所・研究協力者、大学基準協会・大学評価委員会委員等を務める。

主要研究業績

分担執筆・共編著

- 1996年 Kontextualismus als Verhaltensprinzip. In: A.Thomas (ed.) *Psychologie interkulturellen Handelns*. Göttingen: Hogrefe. pp.227-275.(単著)
- 1997年 Das Selbstkonzept im Sprachverhalten. In: A.Knapp-Potthoff/M.Liedke (eds.) *Aspekte interkulturellen Handelns*. München: iudicium. pp.41-64.(単著)
- 2002年 DaF in Japan — Zur Entstehung und Entwicklung des DaF-Seminars der japanischen Gesellschaft der Germanistik. In: M.Sugitani/S.Slivensky/Sh.Nakagawa (eds.) *Pädagogische Interaktion und Interkulturelles Lernen im Deutschunterricht* pp.2-42.(単著)
- 2004年 「ドイツ連邦共和国」大谷泰照／林桂子他編『世界の外国語教育政策 — 日本の外国語教育の再構築へ向けて』東信堂 pp.257-85. (単著)
- 2010年 「ドイツ」「オーストリア」「ポーランド」「関連事項の解説」. 大谷泰照監修, 杉谷真佐子, 脇田博文, 橋内武, 林桂子, 三好康子 (編)『EUの言語教育政策 — 日本の外国語教育への示唆』くろしお出版. 「関連事項の解説」 pp.1-6; 「ドイツ」 pp.53-69; 「ポーランド」 pp.283-296; 「オーストリア」 pp.187-202. (単著, 「オーストリア」は一部, 今堀志津氏と共著)

論文・事典項目執筆等

- 1976年 Die Prozeß-Welt als Abhängigkeitssystem. 広島大学文学部『文学部紀要』第36巻 pp.301-347. (単著)
- 1986年 Literarische Kommunikation im Fremdsprachenunterricht. 『関西大学文学論集 創立百周年記念号』 pp.523-550. (単著)
- 1986年 「たたかうルポルター ジュ文学 — ギュンター・ヴァルラフ『最底辺』をめぐって」『新日本文学』10月号 pp.34-40. (単著)
- 1995年 「『外国語としてのドイツ語』教材にみられるナチス時代の扱い — 戦争責任問題への一考察 —」関西大学経済・政治研究所 研究双書95冊『ドイツ・日本問題研究Ⅲ』 pp.200-274. (単著)
- 1996年 Reformdiskussion der Deutschdidaktik in Japan — Überblick und neue Entwicklungstendenzen in der Landeskunde. Deutscher Akademischer Austauschdienst (DAAD) (ed.) *Reformdiskussion und curriculare Entwicklung in der Germanistik*. Bonn, pp. 215-228. (単著)
- 1998年 Interkulturelle Kommunikation als Herausforderung für die Deutschlehrerausbildung im

- Bereich DaF in Japan. *INTERKULTURELL — Forum für Interkulturelle Kommunikation, Erziehung und Beratung* Jg. 2000, H.1/2, Freiburg. pp.162-173. (単著)
- 1999年 「言語コミュニケーション教育と価値観の変容」日本コミュニケーション研究者会議 (岡部朗一 編) 『1998年日本コミュニケーション会議プロシーディング 9』 pp.81-133. (単著)
- 2000年 Deutscherunterricht und Germanistik in Japan. L. Götze/G. Helbig/H. Anz/G. Henrici/ H.-J. Krumm/W. Veit (eds.): *Deutsch als Fremdsprache. Ein internationales Handbuch Reihe: Handbücher zur Sprach- und Kommunikationswissenschaft*. Berlin, New York: Mouton de Gruyter. pp.1586-1594. (単著)
- 2004年 Deutsch als eine zweite Fremdsprache nach Englisch—Zur Profilbildung der Sprachlehrforschung in Japan. Japanische Gesellschaft für Germanistik (ed.) *DaF als Wissenschaft. Allgemeine Basis und spezielle Situation in Japan. Neue Beiträge zur Germanistik*. Bd.3/H4. pp.57-72. (単著)
- 2005年 「EUにおける『多言語・多文化主義』— 複数外国語教育の観点から言語と文化の統合教育の可能性を探る」関西大学 外国語教育研究機構『外国語教育研究』第10号 pp. 35-65. 関西大学重点領域研究成果. 代表: 杉谷眞佐子 (共著者: 高橋秀彰, 伊東啓太郎)
- 2009年 「文化政策」「教育政策」. 村上直久監修『EU情報事典』所収. 大修館書店 pp. 298-302, 303-313, 及び「基本用語」一部担当. (単著)
- 2011年 「ドイツ, ノルトライン・ヴェストファーレン州の事例から— ポートフォリオと外国語学習の基礎を考える」河原俊昭/中村千秩祥子編著『小学校の英語教育— 多元的言語文化の確立のために』明石書店 pp. 57-88. (一部科学研究費基盤研究A「グローバル時代の外国語教育— 理念と現実/政策と教授法」助成 代表者: 吉島茂) (単著)
- 2011年 「今、『英語プラス1言語』の選択肢を考える— 複数外国語教育はEUのみの課題か?」『英語教育1月号— 日本を支える英語教育とは』大修館書店 pp. 37-39. (単著)
- 2012年 Japan. M. Byram, L. Paramenter (eds.) *The Common European Framework of Reference. The Globalisation of Language Education Policy*. Bristol: Multilingual Matters, pp.198-211. (共著者: 富田祐一)

その他, 国内・国際学会での発表, ドイツ・テュービンゲン大学, 経験的文化研究所主催, 国際シンポジウム „Inspectiong Germany”, 第14回国際ドイツ語教師連盟大会プレナリーセッション (イエナ大学) 等での招待講演, 外国語教育関係の国際学会, 人権問題研究室での「歴史認識の日独比較」に関する国際シンポジウムの開催など.